

共同運営部門：認知症ケアセンター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼循環器内科部長 兼健康管理副センター長 兼ドクターサポートセンター長 兼先進医療開発センター長兼産業医	増田 大作
認知症看護認定看護師	松藤 香織

＜関連部署＞

部署名	部署名
栄養部門	薬剤部門
地域医療連携室（MSW）	リハビリテーション部門

＜特色と概要＞

2016年4月から、当院における認知症およびその疑いのある入院患者を対象として評価を行う認知症ケアセンターが立ち上げられ、さらにその円滑な運用及び適正な活動を行えるように2017年2月1日に認知症ケアセンター運営委員会が立ち上げられた。この委員会での決定事項を中心として具体的な行動内容についての努力を継続している。

当院においても増加している認知症を持っている入院患者に対して、認知症サポート医、認知症看護認定看護師（CN）を中心に薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部門、ソーシャルワーカーなどの多職種が参画している。これらの集団によるグループディスカッションにより認知症を有する入院患者やせん妄が入院後に出現した患者に対して、包括的なリスク評価とよりよいケアのためにそれぞれの独自性を活かしてより良い治療やケアが提供できるよう努めている。認知症に係る地域医療体制構築の中核的な役割を担う将来像を目標としている。

＜実績＞

入院時の判定により認知症ケアチームへの患者登録がなされ、認知症ケアセンター運営委員会での算定実績が報告されている。現在は診療報酬請求の規定に従って短期での身体拘束にまとめるのが望ましいが、病棟運営上難しいところもあり、それに対して委員会や回診でのアドバイスを行っている。

CNによる回診は週2回、多職種によるカンファレンスは週1回金曜日に実施している。実際の診察と病棟担当者とのディスカッションを通じて上記の認知症ケアの向上に努めている。昨年度はせん妄マニュアルと認知症マニュアルの改訂、そして患者家族向けのせん妄パンフレットの配布を行い、今年度も認知症ケアe-learningの実施を行った。

毎回、この受講は順調であり看護局でほぼ100%の視聴率を達成できており、このe-learning実施後から回診での検討等についても継続して向上してきたと考えられる。さらに、今年度も昨年度に引き続き2025年7月23日（水）開催の認知症ケア研修会『認知症サポーター養成講座』を開催した。この内容についてもe-learningとしての撮影を終えており、同様に今年度中に100%の受講率達成に向けて取り組んだ。さらに、新たにe-learningの資料として、ユマニチュードによる患者との非言語的コミュニケーションでのかわり方についての資料を作成しており、来年度公開の予定となっている。

認知症ケアセンターの業務と並行して、入院料の施設基準にも掲げられた身体的拘束最小化基準の達成のため、当委員会と並行して身体的拘束最小化委員会を開催、シナジー効果を合わせてなるべく身体的拘束最小化指針を取りまとめ、幹部会で承認された。同時に身体的拘束の最小化に関する研修を年度末の2026年2月5日に開催し多数の参加者を得た。この両者が協調しつつ病棟での対応強化に努めたい。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

週1回の認知症ケア回診を継続し、さらに、入院患者における認知症・せん妄への適切な治療・適切なケアの浸透に寄与していきたいと考えている。患者にとってもその家族にとっても認知症・せん妄は想定外かつ不安な病態であり、正しい知識や対応を身につけることは重要である。病棟での患者対応だけではなく、家族との対応、さらに地域への認知症サポーターとの連携や退院支援も含めてより適正化する必要がある。当センターにおいても、このような社会の趨勢に当院として応えるよう目の前の患者のケアを病棟スタッフと一緒に検討しながら、せん妄・認知症とさらには身体拘束の最小化について丁寧に向き合っていきたい。